

第35回学校評議委員会 会議録

平成28年2月6日(土) 10:00～11:30

弘前高校応接室

出席者 学校評議員 5名

学 校 側 校長、教頭(司会)、事務長、教務主任

進路指導主任、生徒指導主任、教務部員(記録)

1 校長挨拶

校長 : いつも本校のことを気に掛けていただきありがとうございます。7月に子ども達のねふた制作を見学いただいてから半年以上が経ちました。現在3年生は受験に向けて必死に取り組んでいます。精一杯した努力は報われるのではないかと思います。1、2年生の志望先も半数が難関大を目指している状況で、できるだけ実現させてあげたいと考えています。昔とは違い、今は偶然大学に合格したというのではなく、志望を達成させるためには、きちんと仕組みを作らなければなりません。今後はその枠組みをいかに築いていくかということについて、先生方も努力していかなければならないと思っています。

また、県の第4次教育改革では各地区に重点校を置くことになっており、本校は中南地域の重点校となる可能性もあることから、SSH等の導入などについても考えて行く必要が出てくることになりそうです。中高連携に関しても本校は弘大附属中学から多くの生徒が入学してきているので、併設型ではない連携の仕方を模索していかなければなりません。それらの様々な実施にあたり来年度以降どうあらねばならないのかについてもお話いただきたいと思います。

先日新潟の同窓会に出席した折、本校昭和45年卒業生で工藤さんという新潟大学の先生がいることが分かりました。この方はノーベル賞を受賞した先生に師事し、海外留学して研究を続けるなどして、原子番号113号の新元素発見のメンバーの一員として、世界的に活躍なさっています。弘前高校の卒業生にはこの方のように、活躍している方々がいらっしゃいます。子ども達にも、このように社会に出てから力を発揮できるようしっかりと能力を身に付けさせたいものと思っています。

3 意見交換

教頭 : 日程の確認です。資料にあるように、これから2番の学校報告の現状ということで、それぞれ担当の者から説明をいたします。その後、先に6番の校内の見学をしていただき、また3番以降の内容を行います。

教務部

: 教務部関係の行事の反省についてです。まずは弘前高校説明会です。アンケートの集計結果からは、放送局の生徒や自治会執行部の生徒達が行った内容、つまり生徒によるプログラムが高く評価されています。その他の項目も全体的におおむね良いと評価されており、資料の後ろには記述による意見も載せていますのでご覧ください。

次に10月に実施しました公開授業についてです。二日間の実施で来校した人数は101名で昨年よりも人数が20名程度増えています。以下アンケートに書かれていた感想は全て載せています。おおむね良い評価を頂いていますが、中には厳しい意見もあります。これは職員会議において全職員が共有しており、改善すべき所は見直しを図っています。

本校の中だけの取組ですが、今年度本校ではアクティブラーニングに重点的に力をいれておりまして、その研修会を行いました。アクティブラーニングとは、教師の講義型ではなくて生徒の話し合いの中で主体的に問題を発見し、解決方法を探るという学習形態です。外部講師を招いて11月にその研修会を実施しておりますが、テスト直前であったこともあり時期的に考慮してほしいという意見もありました。内容に関してはおおむね良好な評価でした。

11月に中高連携協議会が行われました。本校に卒業生を出している全ての中学校に案内を出したところ、教育委員会の方も含めて10名の先生が参加されました。授業を参観した後、意見交換会が行われました。中学校の先生方から見て、高校の授業に関する改善点が率直に述べられ、またアンケートにも意見が書かれております。職員会議の場で全職員に配布し、授業をどう改善したらよいかということで共通理解を図っています。教務関係の行事は以上です。

今年度、学校評価のための保護者によるアンケートを行いました。毎年行っているものですが、回収率が82.6%で昨年度よりも2%上昇しています。アンケートの数値による集計結果では1番、9番、13番が良い評価がでており、特に13番目の「本校に入学させて良かったか」という評価項目では、72.3%の保護者の方が「そう思う」という評価をしていました。コメントによる評価でも様々な内容が書かれ、中には厳しい意見もありますが、これに関してはそれぞれの分掌、学年などで検討し、HP上にその回答を掲載しています。

学校評価における職員の自己評価も行いました。それぞれの分掌で立てた自己目標の達成度について評価し合うというものであり、それぞれの問題点を改善していくということを確認しています。学校全般の他は、分掌、学年、部活動まで評価しています。最後のページに、それぞれの分掌に対しての記述での評価が載っていますので、それを見ながら次年度に向けて改善を図っていきます。

授業アンケートも実施しました。教員名は伏せていますが、科目名を見ると大体どの教員が把握できるようになっており、板書の仕方や授業での話し方などについての評価がなされています。また、生徒自身の自己評価も併せて実施しており、その集計も載せています。以上です。

教頭 : ただいまの説明に補足します。この評価ですが結果については、ホームページにも載せています。評価に関しては、教員、生徒、保護者それぞれが評価を行うことになっております。最後に自分たちの反省をまとめて、次年度に生かそうという取組をここ数年実施しています。続きまして、生徒指導部です。

生徒指導部 : まず始めに生徒指導部が対応した問題についてです。過去3年間の数字での推移も載せておりますのでご覧ください。自転車運転中の事故についてですが、今年度件数が例年に比べて大変少なくなっており、初めて一桁になってます。これは自転車の法律改正に伴ってのことだと思いますが、来年度以降も二桁にならないよう注意を喚起していきます。また5月に紙雷管の暴発事故が起き、生徒1名が火傷のケガをする重大事故が起きました。県の教育委員会にも報告をしました。県から各高校に気を付けるようにと文書が入っています。調べてみると各高校でこういった事例が起きていたようなので、今後は起きないように気を付けていきます。また、1年生の生徒9名が車両火災早期通報と救護を行うという善行がありました。県に善行賞の申請をしていますが、まだ結果はきていません。

次に生徒指導部の主な年間活動です。7月にねぶた制作、弘高祭があります。いじめ調査に関しては年3回行われ、避難訓練も年3回実施しています。今年度の主な取組として、遅刻指導や登校時、自家用車の学校への乗り入れの自粛を呼びかけました。

また、部活動における高体連・高文連関係の結果、優秀賞以上を載せました。特に、テニス部女子団体は高総体優勝を目指せるのではないかと思います。男女空手部についても、先日行われました選抜大会で男女共に全国大会への出場を決めています。以上です。

教頭 : また補足ですが、先程の紙雷管の事故の件についてですが、火薬を用いる危険性の高いものではなくて電子式のものに切り替えております。体罰のアンケートは何も報告がありませんでした。いじめアンケートについてですが2回目には5件報告があり、内容はラインで誹謗中傷されたというものや、他人が言っていた自分の悪口を耳にして、それを、いじめと感じたもので、本人からも面談を通して事情を聞き、そのようなことがないように学校で対応しました。3回目では、全くいじめの訴えは出ておりません。続いて進路指導部お願いいたします。

進路指導部 : 2月3日現在での推薦AO入試の合格状況を資料に載せています。弘前大学医学部のAO入試結果につきましては、2月9日に発表される予定です。19名が現在残っています(16名合格しました)。東北大学のAO入試Ⅲ期に関しましても、2月10日発表となっております(5名合格しました)。この数値に少しでも加わってくれればと考えています。

前期日程出願状況では、今年の生徒は医学部医学科の生徒が非常に多いです。9月の進路志望状況調査でも43名の生徒が志望しておりましたが、そのままの推移で医学部を目指す生徒が多い状況です。東北大学志望者が昨年よりも若干少なくなっていますが、今年は千葉大学や東京外語大学や東京工業大学に

志望者が多くなっているのが特徴です。昨年度と同様に東京大学受験者が8名となっておりますが、これは出願して目指す大学に向かうということが非常に大事なことで、その目標に向かって生徒達が努力を続けそれを教員が支えてきたということの表れであろうと思います。数年前まではこの数字が2～3名であったのが、このような多い人数を継続できたのは学年の努力であろうと思います。

続きまして1、2年生の1月の進路志望状況についてです。前回とそれほど変わらないのですが、東京大学に関しても1、2学年共に志望者が二桁となっています。この生徒達が最後まで志望を下げずに戦っていけるような状況を学校として作っていかなければと考えています。また、どちらの学年ももっとも志望者の多い大学が東北大学です。校内模試や授業においても、東北大学に入れる程度の学力を身に付けさせることを目標として取り組んでいきたいと考えています。

学習状況調査についてです。前回の会で話題になったのが、1年生の学習時間に関してで、家庭学習をほとんどしないという数値が16.3%だったことです。この数値は7.7%まで下がってきました。平均学習時間も二桁に乗りました。部活動との両立に苦しみながら、家庭学習を休日に行っているのが読み取れます。自宅での学習の様子という項目を見ると、1年生は入学当初予備校、塾中心という生徒が15.5%でしたが、10月現在では3%に下がっています。通塾の生徒は4月の段階では、240人中の164人つまり68%が通塾していると答えていましたが、現在では85名に減っています。そのうち21名は今後続けるかどうか分からないと答えており、35%に減っています。生徒達の学びが学校中心になってきていることが分かります。以上です。

教頭 : 後ほど今の説明について質問やご意見を伺います。この後授業の様子を見ていただきたいと思います。5分程度この場で待機をお願いします。

校内一巡 授業参観

教頭 : では、質問やご意見ということで、お一人ずつ伺います。敦賀さんからお願いいたします。

評議員

敦賀鉄正氏 : 8月に実施された学校説明会に関してですが、まずは弘高を目指してもらおうということから弘高の教育が始まっているのだと感じました。春から弘前高校に通うのだと高い志をもって入学してもらうことに意義があるのだと思います。この行事で魅力をしっかりと伝えるということが大事なのだと思います。引率した先生方も、弘高生自身が企画したものに対して、非常に高く評価しているようです。自分の子どもも、他の学校の説明会と比較したときに、弘高生のはきはきとした運営の仕方、姿に憧れて頑張って勉強したようです。保護者としても、入学したらどういう高校生活を送るのかという親心が感じられるアンケート結果だと思いました。非常に良い取組だと思いますので、是非今後も続けていただきたいと思います。

評議員

塩崎裕子氏 : まずは丁寧な資料をご準備いただきありがとうございました。アンケートが細かく行われていて、自分自身を振り返る良い資料になるものでこれであれば授業改善につながるなと思いました。去年までは授業中隣のクラスが騒がしいという声も聞こえていましたが、先生方がこれを参考にすることで必死になり、授業力が上がるのだと思います。

また、数年前までは進学をするためには塾に通って当たり前だという風潮がありました。三者面談をしても塾に行って当たり前だという捉え方をされていましたが、部活をやっていると進学ができないということはよく言われていましたが、勉強一本ではなくて行事にも部活動にも力を注ぎ、人間関係も良好であって、それらを上手く気持ちを切り替えて取り組んでいることが結果に結びついているのではないかと思います。

公開授業の案内を頂いたのですが、丁寧に参加・不参加を付ける項目が書かれていたのですが、かえってお知らせだけの方が参加しやすいものだなと思いました。

最後に、選挙のことです。若いタレントたちがテレビなどで話しているのを見かけますが、学校ではどうしているのかが気になっています。少し間違えば、教師自身が指示する政党を勧めていると捉えられることもあるので、生徒間で読み取りしながら話し合いをさせているのだろうか、などと考えています。どのように取り組まれているのでしょうか。

教頭

: 12月に1・2年生全員を対象に、県の選挙管理委員の担当の方に来ていただき、選挙や選挙違反についての説明をしていただきました。パワーポイントを用いて1時間の説明がなされました。全員にアンケートを取ったのですがそれを見ると、「18歳になって投票に行くことを不安に感じていたが、どうすればよいかがよく分かりました」というような感想を書いており、しっかりと理解できているようです。3年生に関しては、これからこういったしっかりとした説明を行うことは難しいのですが、文部科学省から出ているテキストは既に渡しておりまして、これから卒業式に向けて学年集会がありますので、その機会を利用して指導してもらうことになっています。次年度以降は、公民の現代社会の授業や、総合的な学習の時間、特別活動の時間を上手く活用して周知徹底していきたいと思います。これから計画を立てていくつもりでいます。

校長

: 自治会の執行委員長には、自治会の中で考えたり意見を出し合ったりする機会が必要だと思うので、そのように伝えました。自治会を利用して、またクラスの中で話し合いができればと思っています。まだ選挙に関する様々な事例がないので、今後いろいろと考えていかなければいけないと思います。

評議員

三國典昭氏 : アンケートについてですが、3年間務めさせていただきましたがほとんど内容は変わっていないようです。例えば、批判的な評価もあるようですが、その内容につ

いては把握されているのでしょうか。

教務部 : 評価項目Dの「そうは思わない」を選んだ方々がコメントを残しているわけではないので、全ての意見をくみ取れることはできません。マイナスの意見や厳しい意見について、例えば「トイレが汚い」というものですとか「授業の質にバラつきがある」等と書いてくださっている内容に関しては、善処するよう心掛けています。

評議員

三國典昭氏 : 先程校長先生が、昔は東大に入るのは偶然だったけれども、今は生徒が有名大学に入る体制を整えていかなければいけないということでした。今は、補助金等で新設の学部学科ができてきている中、有名大学だけではなくてその他の大学の情報等は、進路指導部でどのように発信されているのでしょうか。

進路指導部 : 例えば今年1年生の進路選択の際に、R-CAP(キャリア支援プログラム)というものを実施しております。それは、自分がどんな学部や分野に適性があるのかという分析ができるものであり、尚且つその適性のある分野に関する冊子がセットになって配付されるものです。まずは、どの大学というのではなく、どの学問領域に向いているのかを見極めるということと、かなり時間をかけて総合的な学習の時間で行いました。今は新しい学部がどんどん新設されていますのでそれに関して興味を持った場合は、生徒達が自主的にHP等で調べています。志望者が多い弘前大学に関する情報、例えば「改組される」ということや、「募集人数が減る」ということに関しては、全体に知らせています。

評議員

三國典昭氏 : 弘前高校は地域の拠点校ということで、今後人数が減ることはなく地域全体から鑑みて相対的に入学者が増えることになります。そうすると様々な子ども達が入ってくるということになりますので、その子達に合わせて様々な情報発信が必要になると思いますので、一言申し上げました。

校長 : 今のご発言は大変重要なことです。今後の教育は多様化が求められる時代となってきます。学校が個々に対して柔軟性をもって対応していかなければなりません。この保護者アンケートについても如実にそれが表れていて、成績上位者だけではなく成績不振者についてもっとしっかりと対応してほしいという意見が多く見られます。今後は、個別指導をしっかりとできるかどうかが鍵となってきます。面談をしっかりと行い、その子がどのような進路を志望しているのか、それに対応したどのような大学があるのかという教員の知識も必要で、生徒にしっかりと伝えていかなければなりません。現在地道に取り組んでいるのは、先生方に様々な所に研修に行ってもらい、情報を共有するということです。今後も続けていかなければならないと感じています。個別の指導に関しては、まだまだこれからということだと思います。

評議員

宮澤田鶴子氏：前回の会議では、1年生の学習に関して勉強の仕方が分からない生徒が多いということで、その指導をしていくということでしたが、それがアンケート結果に出ていると感じました。PTAの資料などを拝見しましたが、これまでよりも分かりやすく工夫がされていて、大変分かりやすくなっている気がします。その辺りのことが結果に出ているのだと思います。先程校長先生からも、個別の指導が大事だという話が出ていましたが、先生と生徒と、もう一つ先に父兄がいると思います。弘高の保護者は行事の出席率も高くアンケートの回答率も高いことから、教育に関する興味関心が高い方が多いことが分かります。けれども、最終的な進路を決定する際には、先生にお任せするしかないという判断になってしまう方も多そうです。それは保護者自身が資料の見方が分からないということもあると思います。特に1年生の保護者の方は、先生方に説明されても資料が膨大にありすぎて理解できないままではいるのではないのでしょうか。それを、資料の見方に関する指導のようなもの、例えば「同じ大学でも学部によって、入試の制度や試験の内容が変わってきてしまう」「大学に入学するのも様々な方法がある」というようなことを、父兄に伝えれば先生方の負担も減ると思います。生徒が進路決定する際に、成績と希望と先生方の指導と親の希望と、というように、皆で共有し合えば良いのではないかなと思いました。

また、図書館を生徒達が有効活用しているなというのを感じました。図書館の資料もたくさんあってそれもまた、有効活用していますね。その中で、15HRの読書量が圧倒的なのに驚きました。何か特別な指導をなさっているのでしょうか。

気になるのはインフルエンザです。いろいろと対応されているということでしたが、廊下でも教室でも個人の使用スペースがあまりにも狭すぎて、特に掛けている外套が触れ合っているのを見ると、インフルエンザが一人でも出たらと想像してしまい、この大事な時期に大変だろうなと考えてしまいます。

校長：教室は狭いですよね。外套も重なって掛けてありますよね。クラスが一つ減ったのでロッカールームにしたらどうか等と考えてみたのですが、選択授業が多い上に教室数も少ないので、学校側としては教室数を確保することを優先させたいということになりました。生徒達が大きな荷物を抱えてくるというのも、健康上支障があるのではないかと心配になります。この間も二酸化炭素の濃度を測ったところ、教室内が通常の数値よりも7～8倍高いことが分かりましたので、教室内の換気を十分行うように呼びかけています。

評議員

大谷雅行氏：教室が狭いということですが、一人あたりのスペースというのは昔と比べて狭くなっているのでしょうか。

校長：昔の方が人数が多かったのですが、机が小さかったような気がします。現在は机が大きくなっていますよね。体格も大きくなったのかもしれない。

大谷雅行氏：昔の記憶では、もう少し机と机の間に余裕があったように感じられます。

保護者アンケートに関してですが、13番のように「お子様を本校に入学させてよかったと思いますか」という直接的な表現になっていますよね。それに関して数値では出ていますが、これだけでは実際なぜそうなのかというのは分からないのだと思います。

教務部 : アンケートでは、進学校として結果を残しているということを評価している部分もあると思いますが、子ども達がねぶた制作で大きく成長できたのを感じられたと保護者の方々が話しているのを聞いたことがあります。学習面だけではなくて行事にも力を入れているということを見てくださり、評価しているということもあるのだと思います。

評議員

大谷雅行氏 : 良い評価の反面、悪い評価も必ず出てきます。それをどう評価するかは難しいのです。世論調査でも様々な数値の読み方があるそうで、ある一定の数値よりも越えていると変化が見られるということで注意が必要なものであり、逆にそれ以下であれば特に気にする必要がないものだという捉え方もあるそうです。そういった意味では、このマイナスの結果は、このような意見もあるのだなという程度で捉えてもいいものだろうと思います。あまりこだわる必要もないようです。

「保健室だより」は定期的に出されているものでしょうか。これは軽く見られがちですが決してそうではなく、とても基本的で大事なことが書かれていると思います。健康に関しては「自分自身をマネジメントする」という観点から、生徒一人一人に注意を向けさせることが非常に重要です。自分を管理できない者は何もできません。これは学習の一環として同じレベルで考えてもらいたいと思います。

学校評価で生徒自身、教員自身の自己評価が書かれています。どう評価してどう改善するかということで、非常にアンケートが精緻になっていますね。基本的には問題点が隠されていないかということや、問題として意識していることをどうクリアしていくかということや、そのことをどう共有していき学校の問題としてどう次に繋げるか、ということが目的なのだと思います。それは、非常に大切なことであって当たり前のことでもあります。資料を見ると、評価のシステムの労力が活動まで踏み込んできているのが見受けられます。だからといって評価システムを軽視するのではないのですが、あくまでも評価することがなぜ必要なのかということや、それを常に念頭に置いていかなければなりません。そうでなければ、評価のための評価になってしまいますし、評価自体が無味乾燥なものとなってしまいますので、目的とつなげながら是非意識的に取り組んでいく必要があると思います。

子ども達に教育の仕方の支柱をどう今後もっていくかということや、どう関わらせながら関心を持たせるかということなど、学校がやることはたくさんあってまだまだできると思います。八戸高校では東大生を二桁出した年があって、その時の校長先生が、「誇りを持っていることは、東大生を二桁出したことではなく、東大に入学した生徒は必ずしも入学当時トップの成績ではなかったが、八戸高校を通過する間にそれだけの力を身に付けることができた、そのような仕組みが体制としてできていることが嬉しい」とおっしゃっていました。東大生を毎年二桁の人数

を合格させられれば、仕組みとして定着したことになるのではないかとおっしゃっていました。残念ながら仕組みは定着しなかったようですが、やはりそういう体制を目指して作っていくべきで、カリスマ教員が一人いたことによって東大生が増えた、ということではなく、学校側として全教員によって教育し合うことによって結果が出せるシステム作りの方が、もっと広い選択肢を生む可能性があるように思います。それが学校評価と結び合うような仕組みを作っていただきたいと思います。個別に見えても実はつながり合っている、総合的な仕組み作りを目指していただきたいと思います。

校長

：「学校に入学させて良かったか」というアンケートに関連したことで言いますと、評価のCとDを見てしまいます。CとDの数値を合わせますと約3%になるのですが、これは保健室利用の生徒数とちょうど同程度の数値になり相関関係があるようです。保健室との関連があると思うので、そういったことにも着目していきたいと思っています。

仕組み作りのことについてですが、本校の先生方はもう精一杯やっています。個人の力としてはもう限界が来ているのではないかと思えるほどです。教員の限界をむかえているわけですから、あとは、仕組みの問題であろうと思います。そこでもっとアンケートの分析をしていかなければならなりません。それをもとに柔軟性や多様性のある仕組みを作っていく必要があります。本校の場合は地域の重点校として、どのような学校づくりをしていくかということが大切です。そうすると東大にも二桁近くの生徒達が志望し、最後まで諦めずに取り組むことができますし、1～2名程度の志望者しかいないような大学に関しても、しっかりとした指導ができるようになると思います。

教頭

：学校関係者評価ということで、生徒・保護者・評議員の方々にご意見を頂きまして、最後に学校評価結果とさせていただきたいと思います。それぞれの項目について、A～Dの評価をしております。1番目「一人一人を理解し、一人一人の能力を伸ばし、一人一人の進路を実現する学校」に関して三つの内容に分かれおり、「一人一人の理解」に関してはかなり丁寧に行っているつもりです。QUテストやエンカウンターを実施し、生徒が孤立しないような取組を行っていますので、これに関しては「A」でもいいのかなと考えています。ただ、「学力の向上」や「出口保証」に関しては、結果ですので「A」と評価するわけにはいかず、おおむね達成しているということで「B」にさせていただきました。二つ目の「努力して取り組むことを重視し日常化していく学校」に関しては、生徒が自ら努力して取り組むようなことを教員が何かやっていますかということですが、部活動や「ねぷた」等の様々な場面で伝えていきますので、生徒達も理解しているのではないかとということで、こちらは「A」という評価にしました。最後三つめの「家庭・地域のニーズに応え、連携して生徒の進路実現を図る信頼される学校」ということで、残念ながら昨年も「B」だったのですが、今年も「A」評価に到達することができませんでした。様々情報公開に努めているつもりではありますが、それでも保護者の方々からは、もっと

学年通信が発行されてもいいのではないかと、進路情報が発行されてもいいのではないかと、というような要望が聞かれます。ですから、この三つめの項目に関しても「B」の評価をつけました。評議員の方々、もしこの評価に関して、何かご意見がありましたら伺いたいと思います。

評議員

敦賀鉄正氏 : まずアクティブラーニング等の授業の改善がなされているということで、「教員によって授業の質にバラつきがある」というアンケートなどに関してです。私の会社でも社員の力量が違いますが、校長先生のように学校として仕組みを作ったときに、同じ教科のまた別の教科であっても指導力のある先生の良い点を、取り入れられるような取組というのがなされると良いのかなと思います。ただ、自分が苦労して取り組んできたものを、人に教えたがらない方もいるかも知れません。特にプロフェッショナルであればあるほどそうだと思いますが、それを取り払うような仕組み作りをしていただきたいです。

校長

: 週1回行っている教科会議というのがあるのですが、年間30時間程度あるので是非この時間を利用して、情報交換や指導力向上に努めてもらいたいと考えています。

評議員

敦賀鉄正氏 : 先程R—CAPの話がありましたが、自分の職業適性について客観的に見ることができるものだということで、自分の子どもの結果を見たところ、自分の志望以外にも可能性があることに気付いたり、やはり自分の志望は合っていたんだということを理解したりと、二つの意味を持っていたように思います。これをやることで、選択肢は広げることでもできるし絞ることでもできるということです。親子の会話も広がったように思えますので、是非来年も実施してほしいです。

塩崎裕子氏

: アクティブラーニングに関してですが、中学校ではかなり取り組んできているものです。弘高でも授業改善がかなり行われているなと感じています。中学校で現場にいたときは、授業改善する際には、同教科でも他教科でも他の先生の授業をとにかく観に行き、行ったら必ずメモを書くということを実施していました。教科会議はもちろんのこと、ただでさえ教材研究やその他で忙しい中、そういったことを実行するとなると大変な労力を使っていらっしゃるのだらうと感じていました。

教務

: 資料には載せていませんが、実は互見授業というのを期間を設けて実施しています。同教科と他教科の先生の授業を互いに自由に観に行き、感想を提出し改善し合うことを年に1回行っています。

評議員

塩崎裕子氏 : 授業アンケートからも伝わってきました。そういった取組がなければ、もっと差が顕著に表れているはずなので、このまま続けてほしいと思います。

評議員

三國典昭氏 : 私は1の項目については、地域の拠点校である弘前高校は「A」であるのが望ましいと思います。いろいろと保護者の方の批判的な意見はあるかもしれませんが、きちんとおおむね良いという統計も取れていることですので、卑下することなく「A」を付けてもらいたいです。

評議員

宮澤田鶴子氏 : 私も3の評価の「B」なのですが、資料もかなり増えていて情報公開がなされていると思います。保護者の方が果たしてどのくらいしっかりと目を通して把握しているのかということが大事なので、私自身の評価としては「A」でいいのではないかと思います。

評議員

大谷雅行氏 : 3点の評価項目の視点については、こうでなくてはいけないなと思います。ただ、具体的方策で三つ目に「出口保証」というのがありますが、これはあくまで感想ですが達成するのは非常に厳しいように感じます。それから、家庭・地域との連携ということですが、これは学校だけではなくて、様々な組織で言葉として「地域のニーズに応える」ということがよく言われることです。言葉としてよく見受けられますが、内容について具体的に何をすることが応えたことになるのか、どういうことなのか、どういったことを行っているのか、またそれがどう教育と関連していくのかというものが、私自身明確な内容が浮かんでいません。戦略としてどうしていくのかということが、具体的であればある程いいのだと思いますので、追求していく必要があると思います。評価に関してはもっと「A」を付けてもいいのではないかと思います。

教頭 : ありがとうございます。それでは皆さんの意見をまとめたものに、また目を通していただきたいと思います。

校長 : 本日は大変貴重な御意見ありがとうございました。いただきました御意見を踏まえ、更に前向きに教育活動に努めていきたいと思います。

終了 12:00